緑あふれる　豊かな自然の町

古江
まち歩きマップ

緑あふれる 豊かな自然の町
古江まち歩きマップ

もくじ CONTENTS

■ 西長江町
01 猪の目の滝 …… 1
02 国司神社 …… 1
03 石の道しるべと扇谷地蔵 …… 2
04 道路パーク …… 3

■ 東長江町
05 瑞応山金剛寺 …… 4
06 金剛寺の美人池 …… 5

■ 古曽志町
07 許曽志神社 …… 6
08 華厳山 道栄寺 …… 7
09 丹花庵古墳 …… 8

■ 荘成町
10 多藝神社 …… 9
11 成相寺 …… 9
12 彌多仁神社 …… 10

■ 西谷町
13 宇賀神社 …… 11
14 来慶山実西寺 …… 12
15 牛切の泉と五輪さん …… 13
16 柿原池 …… 14

■ 古志町
17 起雲山瑞龍院 …… 15
18 五十田神社 …… 15
19 野間観音 …… 16
20 杢屋神社 …… 17

■ 西浜佐陀町
21 十六禿 …… 18
22 大墓 …… 18
23 金亀山満願寺 …… 19
24 出島神社 …… 20
25 茶屋前橋 …… 21

26 古墳の丘古曽志公園 …… 22
27 佐陀川 …… 23
おすすめまち歩きコース …… 24

01 猪の目の滝

鹿島町古浦に通じる古道の中間に位置する猪の目の滝がある。この滝は約5メートルの落差が3段に連なり、西長江川を下り宍道湖に注いでいる。文献にはこの滝をご神体とする式内社「垂水社」の記録がある。

02 国司神社

最古の棟札に天正7年（1579）鰐尾城主長江村地頭、大廻三郎右衛門清長が再興したとある。祭神は国常立尊（くにとこたちのみこと）・大国主命（おおくにぬしのみこと）・稲田姫命（いなだひめのみこと）の三柱である。

明治に至り西長江の新宮（垂水社（たるみしゃ））・東長江の姫二所・日御碕・天森（あめのもり）の4社これに合祀し、東長江町と西長江町の氏神として祀られている。

03 扇谷地蔵（おおぎだにじぞう）と一畑古道道（いちばたこどうみち）しるべ

扇谷の入り口に石の道しるべがある。「左大社右一畑」と刻まれている。つまり、宍道湖岸の大社街道と一畑中道に分かれる所で、その昔一人旅の修行僧が狼に襲われそこで倒れて、死に際に自分の持病でも有る腰から下の病の人々を護りたいと念じて死んだので地元民が地蔵堂を建て霊を祀って今日に至っている。

04 道路（どうろ）パーク

国道431号線に自転車道が整備された際に設けられた道路パークがある。宍道湖の対岸に中国山脈、天気の良い日には東に大山、西に三瓶山が眺められる。

付近の湖面に波止が見えるが、昔この地方特産の長江瓦を始め薪炭など平田船による荷出し場があった。

近くの国道沿いには「長江ふれあい市」がある。

05 瑞応山金剛寺

臨済宗妙心寺派で山号を瑞応山と言い、本尊は阿弥陀如来である。当寺は出雲観音霊場第30番の札所で、昭和34年（1959）9月1日付県指定有形文化財の馬頭観世音菩薩座像がある。仏像の高さは108センチメートルで榧の一木彫刻で極彩色が施されていたと思われる。

06 金剛寺の美人池

室町時代の中頃、この地に斎家入道吉友という武士がいた。吉友には美しい姫がいたが、ある日痘病にかかり、姫は馬頭観音を一心不乱にお祈りをした。やがて白髪の神々しい老人が現れ「此の山のふもとの阿迦井という所の水で身体をよく洗い、ただれた皮膚を布で拭くと治る」とつげた。姫がその通りにすると、たちまち元の美しい姿に戻ることが出来た。それからこの池を美人池と呼ぶようになったと伝えられている。

07 許曽志神社

許曽志神社は、元は南約300メートルの地に立つ石碑「許曽志神社元宮址」の辺りにあった。貞享元年（1684）に現在の松尾山の地に祀られた。「遷し奉る」と古い記録に残されている。祭神は猿田彦命と天宇受売命で夫婦の神様で当地方開発の祖神である。

棟札によると今の社殿は明治13年（1880）に建てられたものである。大正11年７月「村社」から「県社」に昇格した。神社参道には猿の石像と鶏の石像が目を引く。唐獅子の石像は、どこの神社にもあるが、猿と鶏はめったに見られない。

08 華厳山　道栄寺

創建は約590年前（室町時代）というが不明。寺伝によると鎌倉時代の武将佐々木道栄の開基にして、法名にちなんで寺号としたという。宗派は臨済宗妙心寺派である。現在の堂宇は、文政11年（1828）焼失３年後の天保２年（1831）の建築という。守り本尊の阿弥陀如来立像は、宇治平等院鳳凰堂阿弥陀座像作者の仏師定朝の作で黒檀の古仏である。境内には道栄の墓所と伝えられる五輪の塔がある。

明治６年（1873）に湖北地区第１番小学校（島根県第６番小学校）がこの寺に開校、５代泰道和尚が校長となり学校教育をはじめ社会教育にも事跡をのこし、幾多の俊才を輩出した。山門を潜り左に泰道和尚顕彰碑がある。

古曽志町

09 丹花庵古墳

この古墳は、西暦450年頃（古墳時代中期）に造られたものである。面積約2,500平方メートル、方墳で、山代町二子塚、川津町金崎古墳等と同じ時代のものと考えられている。古曽志平野の真ん中に位置し、昭和８年（1933）２月に史跡として指定された。この古墳には「丹花庵」という小寺があったので、その名がついたと言われている。

２段に土が盛られ、墳丘中央部に直接埋めた長持ち形石棺があり、現在は蓋石だけが露出している。蓋石は１枚石をくり抜いた蒲鉾形で、鋸刃文様が彫りこまれている。短甲片や鉄剣片が出土している。

10 多藝神社

この神社は、鎮座年代は不詳である（出雲國風土記に記されている宇多貴社という説もある）。ご祭神は速玉男命で、古来から成相寺村の守護神として祀られている。社屋は、本殿、拝殿、神楽殿及び歳徳神社から成っている。

11 成相寺

この寺院は、高野山真言宗延林山遮那院成相寺といい、本尊は大日如来である。創立年代は明らかでないが、佐太神社の奥の院と伝わり、現在の住職で53世である。出雲観音霊場第28番札所、出雲国13佛霊場となっている。本堂には、県指定の文化財「神像群」が祀られ、庭には、珍しい唐椿、紅梅の老木が、参道には、藪椿がある。

12 彌多仁神社（やたにじんじゃ）

鳥居をくぐると参道、中程の左右にある大きな石燈籠が珍しい。狛犬に迎えられて、突当りの石段を登ると、神社正面。出雲国風土記にも載っている古くて、格式ある社で、大己貴命（おおなむちのみこと）、須佐之男命（すさのおのみこと）、稲田姫命（いなだひめのみこと）が祀られている。本殿は大社造。なお、境内には、若宮神社、神楽殿などの建造物あり。

13 宇賀神社（うがじんじゃ）

祭神は倉稲魂命（うかのみたまのみこと）である。祭祀年代は不詳であるが、中世「佐太の海」が水位減退により周辺が沼沢となり稲作が出来るようになった頃、この地方の有力者が京都より稲作の神として耕地が一望出来る古曽志岡山の地（現在の古江小学校の処）に耕地開成の守護神として祀られた。その後故あって移遷があり、現在地の岡崎に奉遷された。現在は西谷町の氏神として祀られている。

14 来慶山実西寺

曹洞宗で本尊は釈迦牟尼仏（木製座像）である。寺は標高180メートルの高台にあり宍道湖を眼下に眺望できる景勝の地である。創立は養老年間と伝えられるが明らかでないが、開基は実際良真居士という。慶長年間松江城主堀尾吉晴公と共に来た清山という武士が当山に登り実西寺と名づけ実際良真居士の庵として再興した。

15 牛切の泉と五輪さん

今から550年余の昔、この地に大変親孝行な息子が父と２人で暮していた。父親は病気で寝たきりだったが息子が時たま買って帰るわずかな酒を楽しみにしていた。息子がある日のことどこからともなく酒のにおいがしてきたのであたりを見ると岩の間からきれいな水が流れ出ておりその水を口に含んでみると酒そっくりである。これは有難いと持ち帰り父に飲ませた。この事が菅代城主井原大膳守の耳に入り家来を連れて酌みに行ったが大きな牛が泉のそばにいてどうしても酌めない。そこで邪魔する牛を切ってしまったところ泉からは酒が出なくなってしまった。この牛を埋めた処に五輪の塔を立て牛頭大王として現在も地元民が供養を続けている。

16 柿原池（かきばらいけ）

この池は、昭和14年（1939）に起こった60年来の大旱魃を契機に天災から農地を守る事業として、昭和16年（1941）旧古江、生馬の両村がこの地に県営事業として貯水池を造成すべく計画。この工事には、資材や労務不足もあったが昭和27年（1952）に完工した。この事業の恩恵は大きく、その後、安定した農業用水の確保により豊かな穀倉地帯となった。

現在、柿原池は周囲４キロ、貯水量129万トン、水田利用面積は約390ヘクタール。又、水道原水として利用され、給水受益者約２万人に及んでいる。

17 起雲山瑞龍院（きうんざんずいりゅういん）

瑞龍院は、古志村の郷土長野家16代弥三右衛門貞房（1595年寂）が開基し、曹洞宗清光院４世住職徹叟弦低大和尚（てっそうげんていだいおしょう）を招き開山され、御本尊は阿弥陀如来座像が安置されている。当寺には玄武岩の通称マリア観音像（高さ20センチメートル、重さ約２キログラム）が納められており、隠れキリシタンの悲哀を彷彿させる空間がある。

18 五十田神社（いそだじんじゃ）

この社は、出雲国風土記に大井社、延喜式に大井神社と記された神社で、もとはこの地の東の佐太水海（現在は水田）の沖の大井の輪と言われる浜にあったが、洪水により社殿は西の丘麓の大井垣の輪に漂着し、大井神社と称し、後、更に現在地の磯田に移り磯田神社となったが、日本書記に記されている大国主命（おおくにぬしのみこと）との国護りの際に武甕槌命（たかみかづちのみこと）・経津主命（ふつぬしのかみ）の両神が出雲の国の五十田狭（いたさ）の小汀（こばま）に天降ったのは、ここなりとして両神を祀り、五十田（いそだ）神社と改称した。

19 野間観音（のまかんのん）

この寺は中尾山長禅寺といい、本尊は十一面観世音菩薩である。伝教大師（最澄）の作との言い伝えがある。縁起は定かでないが、明治41年（1908）5月の火災で焼失したが、本尊は安泰、その後観音堂が再建され現在に至っている。

昔からこの観音は信仰者が多く、癬痘疳病等に感能ありと言われ、願いごとには、紙に「なまず」の絵を描き、それに願いごと、性別、年齢等を書き、堂内の壁に貼り祈願する。

20 杢屋神社（もくやじんじゃ）

当社の鎮座の年代は詳らかでないが、もと佐太神社の末社の一つとして古志町字杢屋1番地にあったが、大正2年に現在の稲寄山の地に移された。祭神は蛭子命（ひるこのみこと）と天照大神（あまてらすおおみかみ）であるが、後に同じ古志町の字西ノ谷の七所神社（ななしょじんじゃ）の天御中主尊（あめのみなかぬしのみこと）外四柱の神を合せ祀った。本殿は三尺四方で「王子造」と言われ、旧持田村坂本政右衛門の作という。拝殿、神楽殿があり、整った神域として信仰厚き氏子の守護神である。

21 十六禿（じゅうろくはげ）

宍道湖の北側、満願寺山から、その西方釜代山に至る2.8キロメートルの間には、高さ10メートル前後の断崖が16余り点在、この景色は宍道湖の周囲では、ここだけのものであり、朝日山と並ぶ古江の象徴的自然である。

22 大墓（おおはか）

宝永6年（1709）6月3日、68人の旅人を満載した船が嵐に遭い、釜代において41人の溺死者を出し、18人は身元がわかったが、23人は無縁仏となった。男女23人の慰霊のため文化4年（1807）石塔を建立、追善供養を営めりと記してある。

23 金亀山満願寺（きんきざんまんがんじ）

弘法大師が天長年中（824～835）に開山された寺で、2尺3寸の本尊聖観世音菩薩座像が祀られている。満願寺の大銀杏は、樹齢1000年の霊木である。漁船の位置の目安にもなっている。又、毛利元就のお手植えの玉椿は、花は八重、赤桃色で、直径7～8センチで4月初旬が見頃である。

西浜佐陀町

24 出島神社（でじまじんじゃ）

釜代山にあったのを現在地に移され、鳥居のない社として全国に例がない。又、拝殿の入口に掲げられている彫龍は、高さ0.6メートル、幅1.8メートルあり、目を爛々と光らせている。

25 茶屋前橋（ちゃやまえばし）

旧松平藩時代に藩主が鷹狩などに遠出された時、橋のたもとにあった茶屋で休憩されたことから茶屋前橋といわれるようになった。佐陀川にかかる木製桁橋（橋長39.65メートル、幅3.75メートル）で、松江市内に２ヶ所しかない木橋である。

26 古墳の丘古曽志公園

島根県立古墳の丘古曽志公園は宍道湖北岸の丘陵地にある史跡公園である。

住宅地造成中に発見された古墳群が復元されているほか、出雲地域第３位の大型円墳がある。

復元された古墳は出雲地方に多いとされる前方後方墳である。古墳内部から発見された鉄器や須恵器の一部はレプリカで展示されている。

27 佐陀川

松江藩は、寛永16年（1639）の大洪水で河身が変わり、斐伊川が宍道湖に注ぐようになり、そのため、しばしば洪水に見舞われた。清原太兵衛は、松江藩の普請奉行吟味役となってから、一生の悲願としてこの佐陀川の開削の大事業をなし遂げようと治水事業の許可を得る努力を続けてきた。たまたま、天明２年（1782）から３年連続の大水害にこりた藩は漸く世紀の大事業に着手することになる。時に天明５年（1785）、普請奉行となった太兵衛は、多年の念願がかなえられ勇躍工事の指揮をとる。

事業は、多久川と沓川が佐太神社附近で併せ南に流れ、宍道湖に注ぐ旧佐陀川と宮内中田附近より日本海に注ぐ忠大夫川の筋を選んで運河を開くもので、天明７年（1787）暮まで３ヶ年間、文字通り艱難辛苦の事業であった。

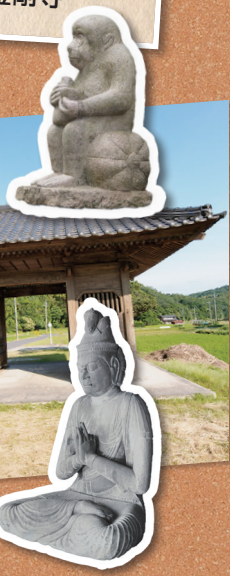
太兵衛は開通式を待たず天明７年11月28日惜しくも急逝した。

もし、開削された佐陀川がなければ、宍道湖周辺は、毎年の洪水期には水害を受け、現在のような安定した生活には恵まれなかったと思われる。また、交通の面でも、今でこそ陸運に変わったが、佐陀川の開削によって松江と日本海の海運が盛んになり、附近のまちを栄えさせた。

おすすめ まち歩きコース

長江コース（西長江・東長江）

04 道路パーク
7分
03 石の道しるべと扇谷地蔵
7分
02 国司神社
7分
06 金剛寺の美人池
3分
05 瑞応山金剛寺



古曽志・荘成・西谷コース

13 宇賀神社
5分
16 柿原池
6分
11 成相寺
5分
12 彌多仁神社
7分
09 丹花庵古墳
5分
07 許曽志神社

古志・浜佐陀コース

23 満願寺
3分
24 出島神社
7分
18 五十田神社
5分
17 瑞龍院
5分
20 杢屋神社

緑あふれる
豊かな自然の町

古江まち歩きマップ

ACCESS

古江へのアクセス

クルマで

米子自動車道・米子ICより …… 50分
米子鬼太郎空港より …… 50分
出雲縁結び空港より …… 40分
JR松江駅より …… 15分

バスで

JR松江駅より朝日ヶ丘線（松江駅▶朝日ヶ丘経由▶免許センター）に乗車

JRで

岡山――松江 …… 140分（スーパーやくも）

編集・制作

古江地区わがまち自慢発掘プロジェクト実行委員会

お問い合わせ

松江市古江公民館

〒690-0122 松江市西浜佐陀町288-1
TEL 0852-36-8054　FAX 0852-36-6116
http://matsue-city-kouminkan.jp

発行　平成26年3月
改訂　令和2年9月